

蒼穹NEWS No.4

七大戦総括号

平成 14 年 8 月 9 日発行



七大戦優勝の賞状を受け取る副将・八木

～ ～ ～ 目 次 ～ ～ ～

- 七大戦の対校得点
- 主将挨拶
- チーフ挨拶
- 七大戦の詳細
- 七大戦の結果
- 個人戦・記録会の結果

七大戦の対校得点

第53回

国立七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 京都大学	76 点	(T 38 F 38)
2 名古屋大学	66 点	(T 45 F 21)
3 東京大学	64.5 点	(T 23 F 41.5)
4 北海道大学	59.5 点	(T 40.5 F 19)
5 東北大学	55 点	(T 44.5 F 10.5)
6 大阪大学	48 点	(T 15 F 33)
7 九州大学	30 点	(T 25 F 5)

第13回

国立七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1 名古屋大学	30 点	(T 14 F 21)
2 東京大学	25 点	(T 20 F 5)
3 北海道大学	15 点	(T 6 F 9)
4 九州大学	6 点	(T 6 F 0)
5 東北大学	4 点	(T 4 F 0)
6 京都大学	0 点	(T 0 F 0)
6 大阪大学	0 点	(T 0 F 0)



優勝盾と賞状を手に喜ぶ雪本監督と米谷主将

主将挨拶

去る7月28日、第53回国立七大学対校陸上競技大会が北は仙台の地で行われました。毎年後一步の所で優勝を逃している我々は今年こそはと並々ならぬ決意を持ってこの闘いに臨みました。京都に比べ涼しい気候のもと、110mH 優勝の若山(4・法)、三段跳優勝の福山(工・2)、槍投げ優勝の堤(5・法)らを筆頭に選手達は持てる力を十分に発揮して着実に点数を重ね、戦前の予想を覆し見事10年ぶりの総合優勝を飾る事が出来ました。

今回の七大戦は盛り上がり欠けた昨年とは打って変わって部員一人一人がチームの為に死力を尽くし本当にチーム一丸で勝利を掴み取った素晴らしい闘いでした。そしてその団体競技としての陸上競技を実現することが出来た我が京大陸上部を私は誇りに思います。この勢いそのままに10月に行われる東大戦では昨年の借りを返したいところですが今回はランキング下位の大学が大健闘を見せる中、本命である東大勢が本来の力を発揮できないまま大きく点数を取りこぼしたという面もある為、全く油断は出来ません。部員一同、秋は東大に完全勝利を納める事が出来るよう練習に励み更なる飛躍に努めます。

最後に未熟な我々を支えそして勝利に導いて下さった蒼穹会の先輩達に感謝の意を表すと共に今後とも皆様の心強い御支援を賜れますよう、どうぞ宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 米谷 健司

チーフ挨拶

副将

まず初めに、仙台という京都からは遠方の地で行われた大会に応援に来て頂いた諸先輩方に厚く御礼申し上げます。また、そのような諸先輩方の前で優勝し、また、諸事情により、現地には来られなくとも応援していただいた諸先輩方にこのように優勝を報告できることを誇りに思います。

次に試合の方を振り返りますと、総合ランキング2位(東京大学に次ぐ)ということで始まり、なかなかランキング通りにはいかず、苦戦を強いられましたが、その分みんなで補い合って勝ち取った優勝だと思います。個人的には、春先不調であった大畑の3位入賞、西村重行の6位入賞など、今年で最後の七大となる選手たちが活躍してチームを盛り上げたことが、とても嬉しく思いました。

また、杉本、横矢という新入生の活躍も見られ、これからもとても楽しみなチームであるので、蒼穹会の皆様には、これからも御愛顧の程、宜しくお願い致します。

八木 美典

短距離

去年の9月から短距離パートチーフを務めさせていただきました広瀬です。チーフの任期約一年間の短距離パートを振り返りますと、東大戦においては一定の活躍を見せたものの、関西インカレ、七大戦で400メートル、マイルリレーが入賞できず、短短、短長とも選手の底上げはある程度なされたものの、やや課題の残る一年となってしまいました。今年の七大戦では、個人で入賞したのは4回生2人だけであり、決勝進出者も4回生3人、3回生1人となっており、若手の活躍が不十分であったという点も来年以降に不安を残してしまいました。

しかし、現在の1,2回生はこれから楽しみな逸材が多くおり、今後の課題としては各種目ともエース格と呼べる選手の育成が必要でないかと思われまます。

一年間御支援、御声援ありがとうございました。

広瀬 亮平

中距離

今回、中距離種目においては、800m で磯島弘(2)が 3 位、1500m では大畑合(4)が 3 位、西村好康(2)が 4 位という結果を収めました。中でも磯島、大畑は大会前のランキングを覆しての入賞であり、“早い”選手よりも“強い”選手が勝つ中距離種目において、大会前のランキングを覆して上位に入賞したことは高く評価できることだと思います。

ここ数年、不本意な結果が続き、チームの足を引っ張ることの多かった中距離班ですが、今大会では十年ぶりの総合優勝に貢献することができたと思います。

しかし一方で、力を十分に発揮できず、全く不本意な結果に終わった選手もあり、改めてコンディショニングの難しさを痛感させられました。今後は、競技力自体の向上はもとより、目標とする試合に向けて心身ともにいかに充実した状態で臨めるかが課題となります。

今回、まずまずの結果を収めた選手はこれを自信に、また不本意な結果に終わった選手はその失敗を教訓にし、ともに今大会を今後の競技生活への布石としてほしいと思います。

最後に、遠く仙台の地まで足を運び応援して下さった OB の方々、また競技場で京大の優勝を信じて下さった方々に厚くお礼を申し上げたいと思います。今後もこれまで以上に努力を重ね、精進していきますので、これまでと変わらぬ御声援をよろしくお願いいたします。
近藤 芳樹

長距離

いかなるレースでも良い点と反省すべき点がある。今回の七大戦についても、皆で優勝の喜びを分かち合うと同時に、本戦、オープンそれぞれのレースに出場した各選手が自分のレースを見直し、次へとつなげていくことが重要である。長距離班は 1 ヶ月後に関西学生駅伝の予選会を控えている。七大戦の熱気をロードへとつなげ、他校を圧倒し、堂々と通過するつもりである。
西村 重行

跳躍

思えば昨年の東大戦の惜敗の陰には、跳躍パートの大敗があった。実力を出し切れないものや故障を抱えたものが多かったことが敗因であった。それは今年の関西インカレにも言えることである。

しかし一転、今回の七大戦優勝に大きく貢献したのも跳躍パートだったように思う。棒高跳びを除く三種目で各々の選手が期待された以上に実力を発揮し、得点した。とりわけ、走幅跳びの杉本や三段跳びの福山、一回生ながら三段跳びと走高跳びの二種目で入賞した横矢等、一・二回生若手の活躍がめざましかったことは、今後の跳躍パートを考える上で非常に意義あることだと思う。

何一つ至らないパートチーフでしたが、このパートに属していたことへの感謝の意をもってしめくりたいと思います。

最後に、仙台まで来て下さった OB の皆様、そして応援して下さい下さった皆様、ありがとうございました。

栗村 聡資

投擲

昨年は 7 位、8 位、9 位ばかりで合計 5 点しか取れなく、チームの足を引っ張る結果となってしまった。今年はその悔しさをばねに皆、力をつけて頑張った結果、全種目で得点をして、堤の優勝を含め、合計 14 点を取り、チームの優勝に貢献できたと思う。
八木 美典

女子部

京大陸上競技部という集団の一員として、男子の総合優勝を大変嬉しく思います。しかしその一方で女子は無得点に終わり、非常に悔しい結果となりました。

得点には反映されませんでした。オープンおよび本戦に出場した各選手とも昨年よりも力をつけてきています。得点が 4 点制であり、簡単には得点できないのが現実です。今の女子は 2 回生、3 回生だけなので、全員来年も出場します。今年に入賞にあと一步届かなかった選手も今後、さらなる努力を重ね、秋の東大戦、来年の七大戦には得点に絡んでいける力をつけて臨みたいと思います。

また、女子は選手不足のため数名が専門以外の種目にも出場して枠を埋めてきましたが、枠を埋めること以前に各自が専門とする種目で確実に点を取るの方が重要なので、今後は陣営の組み方から方針を変えていこうと思います。
大本 祐子

七大戦の詳細

3000mSC 決勝

佐藤 章徳	2 位	9.29.56
山崎 圭介	7 位	9.33.92 PB

七大戦最初の種目、三千メートル障害。出場者の山崎と佐藤の持ちタイムは5位と1位で高得点が期待された。スタート後は東北大の八木が先頭に立ったが、スローペースとなり、ほとんどの選手が離れることなく集団が形成される。その中で佐藤は3番手あたり、山崎は直後の4,5番手という好位置につけていく。先頭の1000m通過は3分10秒。佐藤と山崎もともに3分11秒で余裕を持って通過する。他大学の有力選手もまだ離れそうな気配はない。しかし、2000mの手前あたりから少しずつペースが上がり始め、次第に集団はばらけ出す。佐藤は先頭に立つが、山崎はややきつくなったのか、じわじわと前と差がつき出して7番手あたりに順位を下げてしまう。ラスト一周で先頭だった佐藤はスパートをかけるがいつものキレが見られず八木に抜け出され、阪大の中瀬に並ばれる。トップには離されたが阪大との競り合いはきちり制して2位でゴールした。山崎は惜しくも入賞はなかったが自己ベストで7位のゴールとなった。(大崎)

女子 走高跳決勝

滝上 伸子	記録なし	1m25 × × ×
-------	------	------------

フィールド最初の種目であるとともに、多種目出場となる滝上にとって最初の競技。朝一番のこの時間から体がしっかりと動くように日頃から朝練をしてきた甲斐があったか、体はよく動いていた。試技はいずれもリズムは良かったが、踏み切りに失敗して体が上にあがらず、3回ともバーを引っ掛けるかたちとなり、記録なしに終わった。練習では1m25までクリアできていただけに、残念な結果となった。(大本)

円盤投決勝

河村 和彦	6 位	31m04
		30m39 31m04 30m34 30m93 30m25 ×
堤 哲生	9 位	27m79
		27m79 × 27m25
木村 克也	17 位	21m29
		21m18 20m16 21m29

試合開始から予想通り上位の二人が飛びぬけていき、尾杉(阪)がそれに続く。河村は2投目に31m04を投げ、5位と12cm差の6位につけてベスト8に進む。堤は27m29を投げて3投目に8位に進むも、今まで記録なしだった北大の仲野に最後抜かれて9位で終わる。ベスト8後、河村は30mを越える投げを見せるが、上位陣には届かない。結局2回目の記録が最高記録になり、6位で競技を終えた。この後、堤は槍投げ、河村は砲丸投げ、ハンマー投げをそれぞれ控えているが、最初の競技で各人は波に乗ることができた。木村は大学デビュー戦であったが、リラックスして思い切った投げができていた。堤、河村はベストに迫る投げができていた。(八木)

棒高跳決勝

半田 知巳	7 位	3m80
		3m60 3m80 × 4m00 × × ×
水田 真人	9 位	3m20
		3m20 3m40P 3m60 × × ×

佐藤 真一郎 DNS

男子跳躍では最初の種目となる棒高跳には、水田、半田の2人が出場した。佐藤は110mHとの兼合いも合って棄権した。

水田は試合前から脚に不安感を持っていたが、最初の3m20は危なげなく1本でクリア。ここでバーを一気に3m60に上げて勝負に出るも、3本とも後一步バーには届かず、記録は3m20にとどまった。

半田は3m60からの跳躍となった。ここは難なく1本で越える。続いての3m80は1本の失敗跳躍の後すぐに修正し、2本目で成功。しかし4m00に入って疲れが見えたのか、背中をかする惜しい跳躍を見せたものの、結局これを超えることは出来なかった。(森)

400m予選

(3組2着+2)

米谷 健司	1 組 6 着	52.91
村地 優樹	2 組 4 着	50.05 CB
花谷 直人	3 組 3 着	50.93

米谷は、前半から積極的なレース展開を見せた。しかし、第3コーナーあたりから失速し始め、ホームストレートでは粘りの走りを見せたが、力及ばず6着にとどまった。

村地は前半は抑え目で入ったが、後半から追いあげを見せ4着に入った。タイムは49秒台に迫る記録を残すことが出来た。

花谷は、村地同様抑え気味で入り、第3コーナーに入る辺りから巻き返し始め、最終的には3着となった。3選手とも全力を尽くして走りきったが、残念ながら決勝に残ることは出来なかった。(瀬々井)

110mH予選

(3組2着+2)

佐藤 真一郎	1 組 2 着通過	15.54 (-1.2)
尾崎 禎亮	2 組 3 着	15.83 (-0.1)
若山 哲志	3 組 1 着通過	15.35 (-1.2)

1組目は佐藤。関カレでは好記録を出しており、今回も期待できる。この組は5人出場。スタートで一人が出遅れ、佐藤を含めた4人が横一線。5台目くらいまではあまりスピードに乗り切れなかったが後半伸びてきて7台目あたりで2位になる。そしてそのままゴール。

2組目は尾崎。好スタートを切るが、すぐに東北の2選手にかわされえる。その後も軽快なハードリングで後続の選手との差を開くものの、前2選手には追いつけず3着。

3組目は若山。若山も佐藤とともに関カレで好記録を出しており、実力は十分。試合でもその実力どおり、スタートから頭一つ抜け、そのままりードを保って余裕の一

着。結局、若山と佐藤が決勝進出。尾崎は惜しくも0.14秒差で予選落ちとなった。(中村裕)

女子 100m予選 (2組3着+2)

滝上 伸子 1組5着 14.79 (-1.4)
北川 佳奈 DNS

走高跳を終えて滝上にとっては二種目目の競技となった100m。スタート直後に勢いよく上へと飛び上がりすぎたように見受けられたものの、すぐに立て直し、切れの良いフォームで走る。ラスト20mくらいから少し疲れが感じられたが、フォームは保ったまま、ゴールを走り抜けた。着順は5位。滝上にとっては悔しさの残るタイムになってしまった。(田端)

100m予選 (3組2着+2)

北垣 卓 1組5着 11.52 (-0.1)
広瀬 亮平 2組1着通過 11.11 (-1.1)
堀江 匠 3組5着 11.55 (-0.9)

1組には北垣が出場。スタートがうまく決まり、スムーズに中間疾走につなげる。30mあたりからは横一線のレースになる。北垣は多少力みが見え、少し離され5着でゴール。

2組には広瀬が出場。スタートダッシュで一気に抜け出し、後は余裕のレース展開。1着でゴール。決勝での走りが期待できる走りを見せた。

3組には堀江が出場。スタートはまずまずの滑り出し。中盤は持ち前のストライドの大きな走りを見せるが、他選手にじりじりと離されて5着でゴール。(山岸)

1500m決勝

大畑 合 3位 4.06.84
西村 好康 4位 4.07.35
佐藤 章徳 11位 4.14.33

快晴の中、11時05分号砲一発、スタート。京大の三人は後方からの慎重な出足。すでに本戦第一種目3000mSCに出場した佐藤はかなりきつそう。好調大畑とエース西村は周回ごとにじりじりと順位を上げていく。レースはスローペースですすみ、混戦模様の団子状態。激しい位置取り争いが展開される中、ラスト一周に突入。ここで集団がばらけ、名大の瀧川が一人先行。残り300m地点で大畑、鬼のラストスパート！5番手から一気に先頭に迫る、迫る！迫る！！・・・が、最後は力尽き、一人に抜かれて3位でのゴール。粘った西村も4位入賞。不調ながら、エースの底力を見せた。佐藤は最後の直線で気合の走りをするも、11位にとどまった。「クッソー！！」4分切りを公言し、練習でも好調をキープしていた大畑、レース直後、無念のおたけびとともに1500m決勝は終了した。(渡)

走幅跳決勝

杉本 昌大 2位 7m08 (+1.6) CB
6m98(+1.7) 6m80(+0.8) × 7m08(+3.7) 6m95(+0.5) 7m08(+1.6)
半田 知巳 3位 6m78 (+3.9)
6m51(+2.8) 6m63(+2.1) 6m48(+1.9) 6m78(+3.9) 6m73(+0.3) 6m65(+0.9)
宮田 征門 4位 6m77 (+1.8)
× × 6m77(+1.8) 6m61(+1.9) 6m57(+1.2) ×

半田は棒高跳びを直前までしていたので、助走あわせもままならず、疲れもあったので、最初の3本は板に足が乗らない苦しい跳躍が続いた。その中で2本目に6m63をマークし、ベスト8に残った。そして、ベスト8の4本目に足がびったり合い、6m78をマークして3位で終了した。

宮田は助走練習は少し硬い感じがし、1本目は完全にファールし、2本目はぎりぎりのところでファールとなったが、7m前後は跳んでいた。3本目は完璧に足が合い、6m77をマークしたが、踵を怪我してしまった。4,5本目は踵の怪我のせいもあり、伸び悩み、6本目は7m20前後は跳んだもののファールをしてしまい結局4位で終了した。

杉本は助走練習からかなり良い感じで、1本目は慎重な跳躍ながらも6m98をマークした。ベスト8に残った4本目に足もリズムもばっちり7m08をマークした。6本目も足が合ったものの、惜しくも4本目と同じ記録となり、結局2位で終了した。(松井)

砲丸投決勝

竹村 顕大朗 6位 12m19 PB
× 11m48 × 11m87 × 12m19
河村 和彦 7位 10m40
10m00 × 10m36 10m40 - × ×
垣畑 陽 13位 8m89 PB
7m27 8m89 8m80

練習では河村、竹村の調子は良さそうだった。1投目、竹村は前に体が行ってしまいファールだった。2投目は垣畑がだいぶ調子を取り戻してきた。竹村は11mを越えたものの、タイミングが合っていないようだった。3投目、竹村は12mのラインを超えたが、勢いあまって、踏ん張りきれず惜しくもファールとなった。3投を終わった時点で、上位3人が、13m付近に抜き出していた。4投目竹村は順調に記録を伸ばし、いい感じてきていた。河村は疲れのためかタイミングがおかしかった。5投目、竹村はファールしたものの気合は十分だった。河村は10mを越えることが出来ず、5投目、6投目を自らファールとした。竹村は力強い投げができ、自己ベストを11cm更新する12m19の快投を見せた。竹村には珍しくガッツポーズも見せ、本人にとっても会心のできだったようだ。(木村)

110mH決勝

若山 哲志 1位 15.22 (-1.4)
佐藤 真一郎 3位 15.94 (-1.4)

決勝は若山と佐藤の2名が出場。若山が3レーン、佐藤が7レーン。二人とも予選では上位2着に入っており、この決勝にも期待がもてる。さてスタートだが、スタートに集中したいので一台目を越えるまで全体応援は自粛してくれと頼むほど気合を入れていた。その気合どおり二人とも好スタートを切った。若山は4台目くらいで他選手より頭一つ抜け出し、7台目には独走体制。そのまま1着でゴール。佐藤はスタートは良かったものの予選と同じようにスピードに乗りきれず、後半粘ったのだが無念の8着であった。若山の1着は今大会はじめての京大の1着であり、ムードが大きく盛り上がった。このことが今後の競技にもいい影響を与えたのは間違いないだろう。(中村裕)

走高跳決勝

横矢 龍之介	4 位	1m90	PB
		1m80	1m85 1m90× 1m93×××
渡邊 浩一	5 位	1m90	
		1m85××	1m90× 1m93×××
田中 智弘	10 位	1m75	
		1m65	1m70× 1m75××

走高跳には渡邊、田中、横矢の3人が出場。

長らく2mから遠ざかっている渡邊は、今回こそは復活を成し遂げたいところ。しかし、最初の高さとなる1m85を2本続けて失敗。ここで窮地に追いやられたが、3本目には何とか本来の跳躍を取り戻して成功した。続く1m90は、1本目で失敗したものの、早い持ち直しで、2本目はクリア。調子を上げてきたように思われたが、1m93は惜しくも失敗した。

七大戦初出場の田中。実力通りいけば、1m80~85の記録は狙えたが、1m70で1本ミス、1m75で2本ミスと不安の残る跳躍を重ね、続く1m80も今一步のところでは届かなかった。

同じく初出場のルーキー横矢は、1m80,85とも余裕を感じさせながら、1本で成功。自己ベストとなる1m90も、その跳躍の高さを維持しつつ成功させ、4位に入賞した。

なお、渡邊も5位入賞を果たした。(森)

100m決勝

広瀬 亮平 2 位 11.08 (-0.4)

スタートは見事に滑り出し、他の選手を引き離す。30mあたりで名大の後藤に交わされ、内側の選手にも迫られるが、最後まで振り切り2着でゴール。(山岸)

女子 800m決勝

大本 祐子 7 位 2.28.91

岩瀬 祥子 9 位 2.42.18

800mでは珍しいオープン形式でのスタートとなったため、集団にポケットされた大本は、ハイペースについていく苦しい立ち上がりとなった。その後ポケットから抜け出し、集団から少し離れた位置で走る。ラスト200mでスパートをかけ、力強い加速を見せた。前に追いつく

ことはできなかったが、記録は今シーズンベストであった。

一方岩瀬はスタート直後ポケットされなかったものの、ハイペースな集団の勢いに乗せられ、自分のペースを保つことができないまま、400m通過時点で先頭と差を作ってしまう。また序盤のハイペースからくる疲れのせいも、腕がしっかり振れていなかった。後半は孤立した苦しい展開ながら、ラストスパートをかけ、粘りをみせてくれた。(中村奈)

800m予選

(3組2着+2)

磯島 弘	1 組 2 着通過	1.58.58
前田 昌也	2 組 4 着	2.00.92 CB
寺田 智	3 組 4 着	2.03.09

800m予選1組には磯島が出場。スタート後、東北大・小林を先頭に磯島は中盤4番手あたりにつく。ホームストレートで3位に上がり、400mを59秒で通過。バックストレートでスピードを上げ2位に上がるとそのまま余裕を持って2着でゴール。予選通過を決めた。

2組には前田が出場。スタートで出遅れたがすぐに前に出て3番手あたりで様子をうかがう。その後、バックストレートで先頭にたち、第4コーナーまで粘るが、最後は三人にかわされ4着でゴール。惜しくも予選通過はならなかった。

3組には寺田が出場。序盤は集団の中で4、5番手につき様子をうかがう。400mを通過すると2位に順位を上げバックストレートを快走するがカーブで追い上げられ4位に順位を落とす。最後、必死に粘るもそのまま4着でゴール。予選通過はならなかった。(水井)

400mH予選

(3組2着+2)

寺田 悟	1 組 2 着通過	56.21
尾崎 禎亮	2 組 7 着	60.29
若山 哲志	3 組 2 着通過	59.38

予選1組寺田は300mまで若干抑え目に入り、10台目をこえてから猛スパートをかけ、1人抜かして見事2位でゴール。

2組尾崎はスタートから飛び出したが、6台目のハードルでバランスを崩し失速。これがひびき、その後も歩数が合わず体力が奪われてしまった。

3組に出てきた若山は110mHで優勝した風格を見せた。スタートから軽快な走りハードリングをする。6台目で詰まってしまうが、すぐに体勢を整え、8台目以降は周りを見渡し、順位を確認しながら2位でゴールした。

どのレースもラストの100mが強い向かい風になっており、後半にどれだけ体力を保存しておくかが重要なポイントであったと思われる。(油木)

やり投決勝

堤 哲生	1 位	57m49
		56m59 54m91 55m45 56m54 53m67 57m49
八木 美典	7 位	46m93
		41m52 46m93 × × × 42m39
松田 俊	8 位	46m53 CB
		42m76 × 46m53 45m84 42m95 46m32

練習では松田が 47~8 台を見せるなど、全体的に悪くない雰囲気の中、試合が始まった。やや強い横風が吹く中での試合となった。1 投目で堤が、2 投目で八木が、3 投目で松田がなかなかの投擲を見せ、3 投目終了時点で松田が 8 位、八木が 7 位、堤が 1 位で京大生全員がベスト 8 入りを果たした。5 投目、2 番手に堤が抜かれたものの、それにより気が入ったのか、6 投目で再び逆転し、見事、堤が優勝を果たした。松田、八木は 4 投目以降伸び悩み、順位は変わらなかった。しかし、松田は大学ベストを出したので、高校では 50m を投げていたこともあり、今後の成長に関しては十分に期待の持てる出来だと思われる。(竹村)

女子 400m 予選

(2 組 3 着 + 2)

大本 祐子	1 組 3 着通過	67.85
岩瀬 祥子	2 組 5 着	71.47

二人とも 800m を走ってから 40 分後という苦しい競技日程の中で、400m はスタートした。1 組目には、女子部員の大黒柱である大本が出演。昨年からの改造してきた早いピッチが特徴のフォームで、リズムよく刻んでいく。他の選手が後半スピードを落としていく中、大本のピッチは落ちない。ラスト 100m で前一人をかわし、最後まで崩れることなく淡々と 3 位でゴールした。続いて 2 組目には、岩瀬が出演。岩瀬は大本と対照的な、伸びるストライドで力強く前半を走る。しかし、後半は 800m の疲れが表れ、スピードが落ちる。ラスト 100m は少しフォームが崩れた。(中村奈)

女子 走幅跳決勝

北川 佳奈	7 位	4m80 (+2.8)
滝上 伸子	8 位	4m56 (+3.3)

両名とも試技詳細不明

北川は 1 本目にまあまあの記録を出したものの、腰の痛みもあってか、その後は記録が伸びなかった。しかし、今回の試合を通じて踏み切り足の合わせ方を徐々につかめてきたようであり、今後は助走のリズムを確立し、どんどん記録を伸ばしていってほしい。

滝上は 2 本ファールの後、追い風の助けもあって 4m56 の大学ベスト。自己ベストにもあと 7cm と迫る。その後はいい跳躍が見られなかったものの、不調の波を破るきっかけにはなったか。今後につながる試合であった。(中村奈)

200m 予選

(3 組 2 着 + 2)

藤井 章輔	1 組 3 着	23.26 (-0.9)
広瀬 亮平	2 組 2 着通過	22.83 (-2.8)
北垣 卓	3 組 6 着	23.15 (-2.0)

1 組は藤井(章)。まずまずのスタートでコーナーも良い加速で通過。このあたりから名大の後藤が出てきて直線に入ると抜けていたが、藤井は自分の走りを保って途中、横を見るなどのリラックスした走りですべてフィニッシュ。

2 組は広瀬。スタートは一線かと思いきや、そこから加速力の違いを見せつけ、コーナー出口ではトップ。何度も横を確認しながら、北大をひとり前に許し、2 着でフィニッシュ。決勝、リレーを考えた走りであった。

3 組は北垣。スタートは先を許したが、そこからコーナー出口までに詰めるが、直線に入ってから伸びは今ひとつであったが、ねばって 4 着でフィニッシュ。(浜田)

女子 3000m 決勝

山下 里絵	6 位	11.30.26 PB
田端 亜衣子	8 位	11.46.84

田端は足の故障のため十分な練習ができず、1000m 近くでスタミナが切れてきた。苦しい走りのままラストを追い上げるが、届かず。故障なく安定した練習が積み重ねられ、まだまだ伸びる選手なので、今後に期待したい。

一方山下は自己新記録の納得できる走り。周回をほぼイーブンペースで走り、苦手とされていたラストパートも見事に決まり、前一人をかわす。練習どおり、いやそれ以上の走りができたようだ。フォーム自体もだいぶ良くなってきているので、練習を積んで近いうちに 10 分台の記録を見せてもらいたい。(滝上)



女子走幅跳決勝 北川

4 × 100m R 決勝

〔花谷直人 - 広瀬亮平 - 藤井章輔 - 北垣卓〕

3 位 42.44

一走の花谷は良いスタート。一走は全体にほとんど差がつかない。若干北大が前に出たくらいか。しかし、二走間のバトンパスが上手くない。二走広瀬は後を振り返ってバトンを受け取って走ったが、本来の力を発揮するには至らなかった。さらに、バトンパスでは詰ま

ってしまった。エース区間で前に出られなかったのは痛い。三走、藤井章輔の足の状態は万全ではなかったが懸命につないだ。アンカー北垣にバトンが渡った時点で名大、九大に次いで3位、東北大が追い上げてきたが、わずかな差で逃げ切り、3位を保った。残念ながら連覇はならなかった。(平野)

女子 砲丸投決勝

田端 亜衣子 6位 4m68 PB
 × 4m42 3m65 3m26 4m68 ×
 溜 宣子 7位 4m49 PB
 4m33 3m93 4m28 4m40 4m49 4m38

長距離が専門の二人であるため、絶対的な瞬発力不足のなか戦うことは必至であった。

田端は1投目でサークルを出てしまい、ファール。それ以降も記録を伸ばすことはできず、6投目でようやく砲丸投らしい投擲ができたものの、その勢いに押され、ファール。練習時の記録を上回ることではできなかった。

溜も同じく練習時の記録を上回ることではできず。砲丸の重さに負けてしまい、砲丸を上でなく、水平気味にとばしてしまう。やはり瞬発系の動きは辛かったか。

二人とも副職種目としての出場ではあったが、納得のいく記録ではなかった。今後また出場の機会があれば、この記録は塗り替えてもらいたい。(滝上)

三段跳決勝

福山 大典 1位 14m80 (+1.6) PB
 14m41(+2.2) × × 14m80(+1.6) 13m77(+1.0) 14m72(+0.9)
 横矢 龍之介 6位 13m83 (+1.2)
 × P 13m83(+1.2) P P ×
 栗村 聡資 記録なし × P ×

晴れているが風が心地よい仙台の空のもと、14時半より試合が始まった。予想外に良い結果だった走幅跳をみて、三段跳の3選手はいつも以上に活気付いていた。そして1回目の跳躍、その活気が栗村にとっては仇となった。観客の手拍子にのせ、勢いよく助走を始めたが、勢いがありすぎて、大きくファール。それでも踏み切ってしまった栗村はステップで踵を痛め、2回目はパス、3回目は助走の途中でまともに走れなくなっていた。

一回生の横矢は、三段跳の前に走高跳にも出場していて、助走にも力が無いように見えた。それでもたった一つ残した記録で、6位入賞を果たした。

嫌な雰囲気や断ち切ったのは福山。1本目から安定した記録を出し、4本目には観客の手拍子を後押しに、大ジャンプ、14m80を記録し試合を決定付けた。

京大お家芸の三段跳は今年もエース福山を筆頭に健在である。(杉本)

400mH決勝

若山 哲志 4位 55.53
 寺田 悟 8位 57.13

決勝には若山と寺田が残った。前半、寺田は積極的に飛ばすが若山は抑え目に入る。6台目付近で若山が遅れ始

める。8台目では大混戦となり、9台目を越える前で若山がラストスパートをかけ、一気に8位から4位まで順位を上げゴールするが、寺田は前半飛ばしすぎたためか失速してしまった。大混戦となった400mH決勝だがラストスパートでごぼう抜きをした若山の追上げにはしびれるものがあった。また前半に積極的なレースをした寺田の走りには記録を狙う意地が見られた。決勝も予選と同じくラストの直線が強い向かい風であったが、決勝に残った選手は皆最後まで力強い走りをして、非常に見ごたえがあるレースであった。(油木)

女子 400m決勝

大本 祐子 7位 68.10
 800mと400m予選をこなした後のレースだったため、疲れが心配であったが、スタート後はリズムを崩さず走れた。途中はやはり疲れからキレがなかったが、ラストまでフォームを崩さず走りきれた。(山下里)

ハンマー投決勝

河村 和彦 3位 39m71
 × 38m72 38m87 39m71 × ×
 八木 美典 5位 35m08
 × 33m78 33m40 35m08 × ×
 木村 克也 8位 31m54
 30m70 30m40 31m54 × × 31m27

天気は晴れ、やや暑い中で始まった。1投目、木村が30mを越え、まずまずのスタート。八木は引っ張りすぎたのかファール。河村はサークルにハンマーをぶつけてしまい、ファールとなった。2投目、八木、河村がまずまずの記録を出し、何とか持ち直した。3投目、木村が31m台を出し、ほぼ目標に近い記録を達成した。河村は徐々に記録を伸ばし、三人ともベスト8進出を果たした。4投目、八木は35m台、河村は39m台に記録を伸ばし、調子が上がってきた。しかし八木、河村ともに5投、6投とファールに終わり、少々残念な結果となった。木村は6投目にもまずまずの投げをして、大学初試合でまずまずの結果を出した。これからの活躍に期待できそうである。(松田)

800m決勝

磯島 弘 3位 2.00.47

15時00分から800m決勝が始まった。磯島は冷静に初めの100mを入り、6番手につけた。先頭は北海道大学の選手が引っ張るが、付いていくのは東北大学の選手だけだ。3番手から8番手までの選手は、ほぼ一団となって400mを60秒で通過した。そのとき磯島は5番手だった。1番、2番の選手は後続を引き離して快調に飛ばすが、3番手から8番手までの選手は500mを通過したときでも一団となっていてほとんど差はない。そしてラスト250mとなったとき磯島は5番手にいたが、スパートをかけた。3番手から8番手までの選手全員も磯島がス

パートをかけたので、スパートをかけた。まさに壮絶なレースとなった。磯島は苦しい表情を見せながらも根性で粘り抜き、3番でゴールした。タイムこそ2分00秒47とイマイチだが、一つでも上の順位をとる、という磯島の執念が感じられるレースだった。(三好)



800m決勝 磯島

200m決勝

広瀬 亮平 4位 22.44

走る直前、200m決勝後のマイルリレーに出ると決めた広瀬はスタートからとばすことはせず、コーナーも4,5番で通過した。直線に入ってから2,3,4位がせっており、広瀬はそのまま、4番でフィニッシュ。ラスト30mは疲労のせいか苦しそうであった。(浜田)

5000m決勝

西村 重行 6位 15.19.29 PB

西村 好康 11位 15.42.40

山中 邦夫 17位 16.05.02

曇り空の中、15時45分スタート。スタート直後、東北大の橋が飛び出す。西村好は3番手の好スタート。2位集団はそれほどペースが上がらず、大集団となり、西村重は中程に、山中は後方につく。2キロ過ぎで名大の藤田がペースを上げ、2位集団は8人に絞られた。西村重は最後方についたが、西村好はここで遅れはじめた。3キロ過ぎで、とうとう2位集団が先頭に追いつき、集団は9人に。ここで西村重が勝負をかけ、先頭に出る。しかし、このとき他の選手を引き離すことは出来なかった。4キロ過ぎで九大の選手がスパートをかけ、集団は完全にばらけた。結局優勝は東北大の橋。西村重は一時は入賞圏外かと思われたが最後に必死のスパートを見せ、前評判を覆しての6位入賞。15分19秒29の自己ベストだった。山中、西村好も精彩を欠いたものの最後まで集中力を切らさず、西村好は15分42秒40、山中は16分05秒02の記録でゴールした。(内田)

女子 4X100mR決勝

〔岩瀬祥子 - 大本祐子 - 滝上伸子 - 北川佳奈〕

5位 57.48

短距離専門の選手は2人しかいないチームだが、バトン練習やスタートダッシュの練習を積んできた4人。4位入賞を目指したが惜しくも5位という結果に終わった。

1走岩瀬はスタート直後につまずき、持ち直したものの、スピードに乗り切れず、バトンゾーンぎりぎりまで大本に渡した。大本は4種目にもかかわらず、きれいに足がまわってそのまま滝上へ。滝上もカーブをスムーズに走り、北川にバトンを渡した。ラストで北川は追い上げを見せたが惜しくも抜かせず、5位に終わった。(山下里)

4X400mR決勝

〔花谷直人 - 広瀬亮平 - 藤井章輔 - 村地優樹〕

7位 3.24.19

マイルの結果に関わらず総合優勝は決まっていたが、選手、応援ともにレース前から気合があふれていた。一走花谷はまずまずの走りで四番手あたりの位置で二走へバトンパス。二走広瀬はこれまでに100m、200m、4継を走っており、体力的に相当きつい状態だったのだろう、第三コーナーあたりで七位に転落し、追いつける力は残っていなかった。三走藤井章輔、四走村地とともに前半から突っ込んでいく積極的なレースをした。結果は七位ではあったが、全力を出し尽くしたすばらしいレースであり、今大会を締めくくるにふさわしいものだった。(平野)



5000m決勝 西村重行(写真一番右)

七大戦の結果

男子

1000m(-0.4)

1	後藤 賢二	名古屋	10"81
2	広瀬 亮平	京都	11"08
3	井指 雅彦	北海道	11"12
4	久留島暢平	九州	11"22
5	萩山 宣樹	大阪	11"33
6	米田 武史	東京	11"33

2000m(-1.2)

1	後藤 賢二	名古屋	21"82
2	久留島暢平	九州	21"89
3	吉川 英寿	北海道	22"14
4	広瀬 亮平	京都	22"44
5	遠藤 進	名古屋	22"47
6	徳本 和訓	九州	22"60

400m

1	吉川 英寿	北海道	48"04
2	大竹 洋平	東京	49"28
3	藤島 一星	北海道	49"53
4	橋本 拓也	東北	49"67
5	斎藤 健太	東北	50"34
6	北川 達	大阪	50"73

800m

1	小平 圭一	東北	155"88
2	杉山 喜春	北海道	156"20
3	磯島 弘	京都	200"47
4	渡辺 一章	名古屋	200"64
5	寺田 敦	九州	200"68
6	河野 匠	北海道	200"86

1500m

1	瀧川 紘	名古屋	406"08
2	笹原 翔太	東京	406"60
3	大畑 合	京都	406"84
4	西村 好康	京都	407"35
5	橋 明德	東北	407"36
6	今村 浩二	九州	408"66

5000m

1	橋 明德	東北	1505"60
2	山口 徹	九州	1509"97
3	山家 翔	東北	1513"94
4	田坂 和彦	東京	1515"66
5	藤田 裕	名古屋	1519"18
6	西村 重行	京都	1519"29

110mH(-1.4)

1	若山 哲志	京都	15"22
2	土屋 貴史	東北	15"58
2	横尾 泰宣	北海道	15"58
4	森田 敏広	名古屋	15"81
5	前里 優介	名古屋	15"83
6	佐々木 隆	東北	15"85

400mH

1	横尾 泰宣	北海道	53"44
2	田中 徹治	大阪	54"73
3	加藤 真人	名古屋	55"12
4	若山 哲志	京都	55"53
5	五十嵐 哲	東北	55"76
6	松本 大毅	九州	55"99

3000mSC

1	八木 悠太	東北	925"74
2	佐藤 章徳	京都	929"56
3	中瀬健太郎	大阪	929"64
4	田辺 匡亮	東京	931"26
5	稲垣真太郎	名古屋	931"32
6	相原 佑康	東京	932"47

4x100mR

1	名古屋大学	42"02
2	九州大学	42"17
3	京都大学	42"44
4	東北大学	42"45
5	大阪大学	42"53
6	東京大学	42"88

4x400mR

1	北海道大学	317"05
2	東北大学	319"20
3	東京大学	319"23
4	名古屋大学	319"75
5	九州大学	320"35
6	大阪大学	320"45

走高跳

1	真鍋 周平	大阪	2m21
2	村口 和人	東京	1m96
3	藤原 啓	東京	1m96
4	横矢龍之介	京都	1m90
5	渡辺 浩一	京都	1m90
6	森下 聡	東京	1m85
6	西川 漠	東北	1m85

棒高跳

1	川添 雄太	東京	4m80
2	細川 尊史	大阪	4m50
3	徳多 正行	東北	4m30
4	島田 俊雄	東京	4m10
5	端浦 雅人	名古屋	4m10
6	森田 敏宏	名古屋	3m80

走幅跳

1	安積 高靖	大阪	7m16(+1.5)
2	杉本 昌大	京都	7m08(+1.6)
3	半田 知巳	京都	6m78(+0.9)
4	宮田 征門	京都	6m77(+1.8)
5	藤田 靖浩	東京	6m74(+1.7)
6	橋本 武	東京	6m71(+2.0)

三段跳

1	福山 大典	京都	14m80(+1.6)
2	藤田 靖浩	東京	14m54(+2.0)
3	安積 高靖	大阪	14m19(+0.7)
4	川添 雄太	東京	14m04(+1.2)
5	余郷 徹明	北海道	13m99(+0.9)
6	横矢龍之介	京都	13m84(+1.2)

砲丸投

1	中村 友浩	名古屋	14m07
2	上田 泰弘	九州	13m49
3	尾杉 友浩	大阪	13m29
4	出口 雅俊	東京	12m55
5	遠藤大五郎	北海道	12m46
6	竹村顕大朗	京都	12m19

円盤投

1	出口 雅俊	東京	38m05
2	仲野 大地	北海道	37m02
3	中村 友昭	名古屋	36m67
4	尾杉 友浩	大阪	34m40
5	遠藤大五郎	北海道	32m59
6	河村 和彦	京都	31m04

ハンマー投

1	南川 一夫	東北	44m55
2	中村 友昭	名古屋	40m17
3	河村 和彦	京都	39m71
4	遠藤大五郎	北海道	38m02
5	八木 美典	京都	35m08
6	出口 雅俊	東京	34m91

槍投

1	堤 哲生	京都	57m49
2	作本 和秀	大阪	57m21
3	持田 翼	北海道	50m73
4	中村 友昭	名古屋	50m67
5	出口 雅俊	東京	49m70
6	仲野 大地	北海道	48m55

女子

女子100m(-1.2m)

1	帰山 祐佳	東京	12"85
2	松本亜紀子	北海道	13"25
3	荒俣 夏樹	名古屋	13"16
4	塩入 敦子	東京	13"17

女子400m

1	塩入 敦子	東京	61"41
2	目黒亜由子	東京	60"84
3	中村ちひろ	東北	61"14
4	久野 理絵	名古屋	61"41

女子800m

1	目黒亜由子	東京	2'19"18
1	岸上 香織	名古屋	2'21"22
3	久野 理絵	名古屋	2'22"83
4	中尾 絵美	九州	2'24"70

女子3000m

1	岸上 香織	名古屋	10'36"02
2	中尾 絵美	九州	10'38"46
3	白藤 寛子	名古屋	11'05"15
4	益野可奈子	九州	11'11"06

4×100mR

1	東京大学	50"72
2	北海道大学	50"83
3	東北大学	54"55
4	九州大学	57"28

女子走高跳

1	金子 香織	名古屋	1m50
2	勝野 麻美	北海道	1m45
3	松本亜紀子	北海道	1m45
4	原田 幸	名古屋	1m40

女子走幅跳

1	荒俣 夏樹	名古屋	5m71(+1.5)
2	松本亜紀子	北海道	5m30(+2.2)
3	原田 幸	名古屋	5m19(+2.5)
3	伊藤 佑	北海道	5m06(+2.6)

女子砲丸投

1	中西 紅美	東京	9m40
2	金子 香織	名古屋	9m31
3	高橋 明珠	名古屋	9m15
4	帰山 祐佳	東京	7m41

個人戦・記録会の結果

(2002年7月5日～2002年7月27日)

第57回京都選手権(7/5,6,7 西京極)

100m

雪本 明宏(院)	予	11.17	+1.3
北垣 卓	予	11.22	+2.5

200m

雪本 明宏(院)	予	22.87	+2.8	
	準	22.87	+1.8	
藤井 健輔	予	22.72	+1.9	PB
	準	23.62	+0.5	
根元 貴行(院)	予	23.20	+2.8	

400m

根元 貴行(院)	予	51.95
----------	---	-------

800m

磯島 弘	予	1.58.13	CB
	準	1.59.30	
寺田 智	予	2.01.01	
	準	2.02.78	
前田 昌也	予	2.02.24	CB

1500m

大畑 合	決	4.21.74
------	---	---------

5000m

西村 重行	決	15.40.27
西村 好康	決	15.42.99

400mH

寺田 悟	予	57.86
------	---	-------

3000mSC

西村 重行	5位	9.46.69	PB
-------	----	---------	----

4×100mR

雪本(院)-若山-広瀬-北垣	予	42.76
----------------	---	-------

4×400mR

雪本(院)-若山-広瀬-北垣	2位	43.02
----------------	----	-------

5000mW

杉本 明洋	-	DSQ
三段跳		
栗村 聡資	決	14.34 +1.2
福山 大典	決	14.13 +2.3
垣畑 陽	決	13.43 +1.3
十種競技		
半田 知巳	決	5831
11.46(+2.6)[761]-6.66(+1.3)[734]-10.21[498]-		
1.85[670]-54.06[637]		
16.63(+2.0)[663]-27.79[420]-3.60[509]-		
47.13[546]-5.29.60[401]		
花谷 直人	決	5040
11.15(+2.6)[827]-6.47(+0.2)[691]-7.99[366]-		
1.55[426]-50.52[791]		
17.29(+2.0)[594]-21.04[292]-2.80[309]-		
29.67[295]-5.20.18[449]		

第3回学連記録会(7/6,7 金岡)

100m

北垣 卓	11.58	-2.0
米谷 健司	12.18	-0.6
村地 優樹	12.21	-3.3
平野 聖	12.53	-2.4
河野 良	12.60	-3.4

200m

広瀬 亮平	22.53	-3.3
村地 優樹	23.47	-3.3
米谷 健司	24.30	-3.2
西村 広展	24.80	-1.5

400m			山岸 公彦	OP	12.20	-0.5	
村地 優樹	50.65	CB	米谷 健司	OP	12.21	-1.7	
米谷 健司	52.88		油木 純一	OP	12.25	-1.7	
800m			赤井 誠一	OP	12.31	-1.2	
背戸 和寿	2.08.51		浜田 良太	OP	12.57	-1.2	
1500m			河野 良	OP	12.62	-2.4	
佐藤 章徳	4.15.98		高岡 寛也(蒼)	OP	12.66	-1.9	
石田 康典	4.35.58	PB	400m				
宮木 貴志	4.26.34		藤森真一郎	OP	54.99		
5000m			西村 広展	OP	55.54		
背戸 和寿	16.57.34		1500m				
佐藤 章徳	18.04.38		内田 翔	OP	4.19.49		
110mH			田中斉太郎	OP	4.19.57		CB
尾崎 禎亮	16.28	-1.4	宮木 貴志	OP	4.22.12		CB
400mH			宇部 達	OP	4.25.07		
尾崎 禎亮	61.00		水井 研吾	OP	4.26.33		CB
3000mSC			山田 修裕	OP	4.27.57		
大崎 友数	10.39.70		菅原 健志	OP	4.35.83		
走幅跳			山城 丈	OP	4.36.28		
鈴木 龍介	5.80	+3.5	石田 康典	OP	4.36.69		
砲丸投			三好 達也	OP	4.39.38		
河村 和彦	10.99	PB	5000m				
円盤投			背戸 和寿	OP	16.27.40		
河村 和彦	32.61	PB	松本 隆平(院)	OP	16.31.41		
100m			杉本 明洋	OP	16.35.44	PB	
北川 佳奈	14.52	-2.0	渡辺 敬宏	OP	17.01.07		
滝上 伸子	15.17	-3.4	吉田 寛幸	OP	17.11.57		
200m			伊藤 隆裕	OP	17.39.12		
滝上 伸子	31.01	-2.0	斉藤寛太郎	OP	18.03.57		
800m			小林 輝明	OP	18.45.00		
大本 祐子	2.29.45		走幅跳				
岩瀬 祥子	2.38.80		鈴木 龍介	OP	5.64	+2.2	
1500m			高岡 寛也(蒼)	OP	5.52	+0.2	
中村奈都子	5.35.59	PB	佐伯 大輔(蒼)	OP	4.86	+1.5	
3000m			やり投				
山下 里絵	11.47.16		雪本 明宏(院)	OP	34.21		
100mH			田中 智弘	OP	32.84		PB
北川 佳奈	18.84	-3.1	藤森真一郎	OP	31.53		PB
走幅跳			赤井 誠一	OP	30.64		PB
北川 佳奈	4.69	+2.3	河村 和彦	OP	30.53		
			真鍋 文朗	OP	28.92		
第53回国立七大学対校 (7/27 宮城野原)			西村 広展	OP	28.15		PB
100m			小林 祐之	OP	16.30		PB
雪本 明宏(院)	OP	11.54	-1.7	1500m			
瀬々井巖士	OP	11.63	-1.7	中村奈都子	OP	5.28.43	PB
小林 祐之	OP	11.91	-1.3	溜 宣子	OP	5.50.43	
藤井 健輔	OP	11.92	-1.8				
佐伯 大輔(蒼)	OP	12.14	-1.8				

七大戦優勝盾



蒼穹ニュース 平成14年度 第4号

平成14年8月9日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：岩瀬祥子・真鍋文朗・大崎友数・北垣卓・田中齊太郎（副務）

特別協力：森一（学連員）・滝上伸子（体育会員）

佐藤章徳（記録係）・背戸和寿（HP係）

写真担当：垣畑陽・菅原健志・村地優樹

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/>

蒼穹ニュース HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/soukyu.htm>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス cqs02404@nifty.com（田中）

中長夏合宿、およびセメスター制導入による試験期間と重なり、発行が遅れたことをご詫びします。